

【第24回通常総会／第22回自主防災組織総会の報告】

第24回通常総会・第22回自主防災組織総会が、4月21日(日)午前10時よりこてはし台中学校体育館において開催されました【自治会登録会員数2,790人(令和6年3月31日現在)のうち、当日出席95人・委任状出席2,495人(合計2,590人、92.8%)】。

当日は総会に先立ち、傘下各サークル代表からの活動報告及び地域の民生委員児童委員・地域保健推進員のご紹介をさせていただきました。

総会におきましては皆さんから活発な質疑やご意見を頂戴しましたが、最終的には全議案とも原案通り可決されました。(総会終了 13:07)

なお当日の質疑応答・ご意見等を含む議事録(抄)は今回回覧させていただきますとともに、議事録(写)は集会所事務室にて供覧させていただきます。



【会長挨拶】

み春野自治会では設立以来、安全で安心、快適な居住環境の維持向上、かつ災害にも強いまちづくりを基本としてきています。今年は元旦から能登半島地震が発生し今なお復旧が道半ばであることを考えると、昨年からの自治会で注力している防災関連事業については一段と深化させなければなりません。しっかりとした安否確認体制の下での「自助」「共助」を根幹に据えた地域対応力の強化を進めていきたいと考えています。

そのためには隣近所との「顔の見える関係づくり」「つながりのある地域づくり」がベースです。従来イベントに加え新たな会員交流促進の場づくりや近隣自治会との連携体制維持、地域自治体や所轄署等関係機関との連携強化、迅速な情報共有や安否確認ツールとしてのデジタル化推進等を進めていきたいと考えていますので、皆さまのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

■令和6年度新役員（五十音順、班番号、*留任）

★旧役員の皆さん、1年間お疲れさまでした。これからも自治会サポーターとして引き続きご支援ください。
新役員の皆さん、これから一緒によりよい街づくりをしていきましょう！

■令和6年度の事業活動方針

総会議案書の第5号議案にお示ししたとおりです。

【各部からのお知らせ】

1. 会計部より

《 令和6年度上期自治会費等納入のお願い 》

班長・副班長さんが各戸へ集金に参りますので、上期分自治会費3,000円お納め頂くようお願い申し上げます。
併せ「赤十字活動資金」と「千葉市を美しくする会」の募金も案内させていただいています。
詳細は別紙回覧をご覧ください。

2. 親睦部より

《 第1回サークル協議会を開催します 》

5月26日(日)に本年度第1回サークル協議会を開催します。各サークルの活動報告や今年度の取り組みに向けた意見交換を行いつつ、今年度の自治会イベントへのご協力を念頭に自治会としても活動を支援してまいります。

《 第1回夏祭り実行委員会を開催します 》

6月16日(日)に第1回夏祭り実行委員会を開催します。今年も自治会員の皆様とともに思い出となる夏祭りを作り上げていきたいと思えます。出店希望者・役員OB・夏祭りの企画アイデアをお持ちの方など、幅広い方々に実行委員会メンバーとして一緒に取り組んで頂けると幸いです。

3. 環境衛生部より

《 み春野公園・北&南モニュメント花壇の手入れを実施 》

5月18日(土)に千葉市から花苗の支援(花いっぱい市民活動助成)を受けたことからガーデニングサークル、自治会役員等が合同でみ春野公園、北モニュメント、南モニュメントの花壇を手入れしました。



《 清掃キャンペーン開催のお知らせ 》

6月2日(日) 10:00~ 清掃キャンペーンを開催致します。

一斉メールや市から防災無線をお借りし放送も行いますので、ご参加の程お願い致します。

班長・副班長さんは、決められた班が集合する公園に集合して頂き、ゴミ袋を受け取った上で班員の方へ配布してください。(詳細は5月26日の回覧版に掲載いたします)

当日雨の場合は中止、判断が難しい場合についての連絡を、上記同様にメール・放送にて連絡をいたしますので、確認をお願いいたします。

4. 防災部より

《 地震への備えは、事前の対策と訓練の継続が重要です 》

去る3月17日には、安否確認訓練を実施したところですが、「み春野」における防災意識の高さが窺え、「安否カード」の掲出率は全世帯の約70%でした。

さて、1995年の阪神・淡路大震災以前、専門家は近畿地方の活断層の存在を認識していましたが、この情報は国民や自治体に適切に伝わっておらず、「近畿地域は地震が少ない」という誤った考えが広まっていました。その後、毎年1月1日を基準に地震の発生可能性を確率で示していますが、今年も確率値が更新されました。例えば、「宮城県沖の陸寄りの地震」の30年以内の発生確率は70%~80%から70%~90%に上昇しました。地震が起きる確率は平均発生間隔が短い海溝型地震の方が高くなりますが、低い確率の地震が起こらないことを意味するものではありません。活断層での地震の場合、期間を長くすれば確率は大きくなり、ほぼ必ず地震が発生します。また、確率の高い地震が必ずしも先に発生するわけでもありません。地震は一度起きると被害が甚大になる可能性があります。地震への備えをお忘れなく。